

## 1. 活動報告（事務局 記）

- 6月末 合鴨農法先駆者の菊川町へ調査勉強会に会員3名で行きました。その結果、合鴨用小屋を製作し田んぼに設置しています。放鳥式は菊川のテレビや見学によって勝手ながら数名の会員にて意見によって取り決めました。ご了承ください。

- 6月30日（土）宇部市地球温暖化対策ネットワーク総会に田村副会長出席

- 7月1日（日）今日の活動は

- ① 田んぼの合鴨害獣からのプロテクター取付
- ② 湿地帯タテバチドメグサの間引き
- ③ 合鴨の放鳥訓練

17名の参加でした。暑い中大変お疲れ様でした。

合鴨飼育当番が下記決定いたしました。宜しくお願いいたします。

飼育当番の目的及び方法：カラス、とんび及びイタチ、狐からの保護と田んぼの草取り運動監視です。

- ①朝一番7時～9時くらいの間に小屋入口網を取り外す

- ②田んぼに放鳥し小屋内の餌箱に餌を補充及び害獣監視：1時間くらい（長いほうが良い）

- ③夕方6時～7時くらいに小屋に合鴨収納し入口網の固定

当番

5日原田賢、6日吉富匡、7日藤井、8日関根、夕方今井、9日林弘、10日田村、11日吉富匡、12日金子、13日田村、14日美濃和、15日前田、16日藤村、17日北村、18日林弘、19日原田賢、20日原田賢、21日若林、22日潮村、23日林弘、24日原田賢、25日田村、26日藤村、27日吉富匡、28日前田、29日渡辺・潮村、30日若林、31日金子、8月1日寺森、2日吉富匡、3日原田賢、4日原田満

- 7月2日（月）本日大雨の中、合鴨の放鳥式を白石神官をお迎えして祝詞をあげていただきました。二俣瀬児童保育の児童9名地域会員12名 市の広報課、宇部日报社、二俣瀬ふれあいセンター職員2名等の参加を得て合鴨の行く末と、もち米の豊作を祈りました。田んぼの中で元気に泳ぎまわっています。一安心です。

- 7月21日（土）午前、① ビオトープの草刈、② エコアップ（湿地のタテバチドメグサ、スゲ、オオフサモの除去）で14名の参加でした。大変お疲れ様でした。

- 7月21日（土）午後は、「田んぼの生き物」で、まず田んぼに入ってもらい雑草のコナギとタカサブロウを採ってもらい、次に網を使っていろいろな生き物を捕まえてもらいました。淡水魚5種、甲殻類（エビ、カニ）4種、貝類3種、水生昆虫8種、両生類（カエル、イモリ）6種で、隊員22名、保護者14名、会員12名で行いました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者 現在の所申し込みはありません

◎ 行事

- 8月 5日（日）（第一日曜日）保全活動（エコアップ、草刈りなど）
  
- 8月18日（土）（第三土曜日）保全活動（エコアップ、草刈り、ソバの植付け）、  
午後 里山自然観察隊（川の探検）  
夜 里山自然観察隊（キャンプ）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

- 6月28日— 宇部市内から初めてやって来ましたが 自然をたんのうしました。維持管理が大変だと思いますが頑張ってください。（66歳、男性）
  
- 7月1日— フナを2, 3びきほしいと思った。（宇部市東須恵 富田太郎、10歳）
  
- 7月1日— アイガモがとてもかわいかった。（宇部市東須恵 神代貴和、12歳）

4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

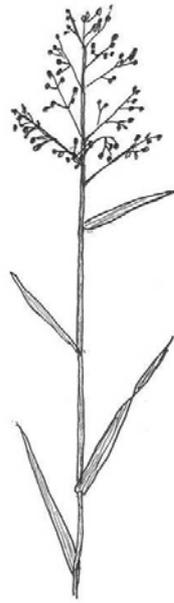
チゴザサとカモノハシ

ビオトープの湿地で今花を咲かせているイネ科の植物を二つご紹介します。

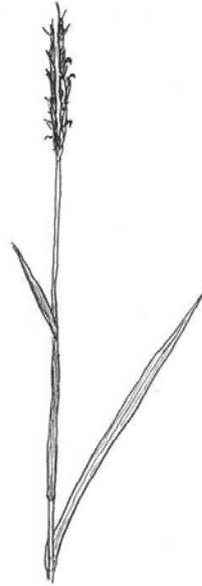
小さい2mmほどの小穂をたくさん付けている背の低いイネ科の植物がチゴザサです。チゴザサは北海道から南西諸島にかけて日本全国に広く分布する多年生の草本で、水田やその周辺に多く、水田の畦や放棄水田、ため池の湖岸、沼沢地などで生育します。チゴザサとは「稚児笹」の意味で、小さい笹のような植物であることから来ています。茎を地表に伸ばして広がり、節から根を出して定着する多年草なので、広い面積をこの植物が占めることになります。ヨシやカササゲなど、高茎の植物を刈った場合にこのチゴザサが優先するらしく、ビオトープのイネ科植物の中では一番広い面積を占めています。また、湿地に生えるアザミの一種、マアザミと相性が良いらしく、チゴザサーマアザミ群落という群落名があります。確かにビオトープの湿地でも、ところどころチゴザサの中にマアザミが生えてきており、時々草刈りする程度の管理を続けていくと、このチゴザサを主体とした低茎植物群落が維持されていくのかもしれませんが。

カモノハシは、本州から九州に生育する多年生草本で、おもに湿地に生育し、高さ数10cmから70cmの株立ちになります。ビオトープでは湿地の中でもミズゴケのある島に特に多く生えています。7月になると、いかにもイネ科らしい穂を立て、花を咲かせます。ところが一つの円筒状に見えるこの花穂、実は二つの花序が合わさってできているのです。そして、花期の今ころはそうでもありませんが、季節が進んで秋を迎えると、合わさっている面は、イネ科の穂とはとても思えないようにつつるして、手で広げるとそれこそカモノのくちばし、「鴨の嘴」に見えます。これを初めて知った時は、本当に驚きました。なぜこのような構造をとらなければいけないのか、なにか合理的な理由でもあるのでしょうか。自然は時として不思議なことをします。卵を産む哺乳類として有名なオーストラリアのカモノハシは、一見してすぐ名前の由来がわかりますが、この植物のカモノハシは、普通に生えているのを見ただけでは絶対わからない驚きの植物です。カモノハシの花の咲き方は、「雌性先熟」といって、最初にブラシのような雌しべの柱頭が出て、それがしおれると、雄しべの葯が出てきます。雌しべと雄しべの成熟の時期をずらすことで、自家受粉を回避するわけです。きょう見た花穂には黄色い葯がたくさん突き出ていました。

いつ花が咲いているかわからないようなイネ科の植物ですが、こうやって着実に花を咲かせ実を結び、子孫を残していきます。きれいな花を咲かせる植物だけに注目するのではなく、等しくどんな植物にも目を配っていくことが、ビオトープをやっていく上では必要です。



チゴザサ (イネ科)



カモノハシ (イネ科)

## 5. 会員の声

私 ミサゴを見ました。

(田村 美代子 記)

これまでビオトープの活動をしていても、話には聞きますが本物のミサゴの姿を見たことがありませんでした。

先日さら浜自然観察公園に行き池の中の支柱の上でボラを掴んで食べているのを見ることが出来ました。望遠鏡で観察すると目は真ん丸くて鋭く輝きくちばしは大きく胸から足もとの毛は白く太い爪でがっしりとボラをおさえて食べていました。さすが実物は図鑑で見るとよりも美しく気品がありました。その支柱の真下にはアオサギが身じろぎもせず立っていました。いつ落ちてくるかわからないおぼれを待つアオサギはなんともいとおしかったです。自分で餌さを捕まえるよりおぼれの方が楽なのかしら。この時期他のミサゴはペアーを作って巣作りに出かけて冬に帰って来るとのことです。相手のいないミサゴが餌さを掴んで食べる姿を偶然見ることが出来て感動しました。自然観察公園の館内は見学者も少なく指導員の丁寧な説明を聞く事ができました。これを機会に私も会員の皆さんと少しはミサゴの話しが出来るようになったと思います。

## 6. 里山自然観察隊 (7月21日、隊員22名、保護者14名、会員12名)

### 田んぼの生き物

午後の里山自然観察隊は田んぼの生き物調査で、山口県の両生類生息マップを作成された山岡郁雄先生を迎えて行いました。田んぼではアイガモたちとヤマカガシが迎えてくれて、子ども達は大興奮でした。まず、植物として雑草であるコナギとタカサブロウを採ってもらいました。

次に網を持って、田んぼ・止水池・ため池などで、いろいろな生き物を捕まえてもらいました。

淡水魚 (5種) : メダカ、カワムツ、ギンブナ、ドンコ、ドジョウ

甲殻類 (4種) : ヌマエビ、スジエビ、少し大きいエビ?、サワガニ

貝類 (3種) : マルタニシ、ニナ、シジミ

水生昆虫 (8種) : タイコウチ、ミズカマキリ、アメンボ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、マツモムシ、オオヤマトンボのヤゴ、緑色のヤゴ (ヤンマの仲間?)

両生類 (6種) : ニホンアカガエル (7匹)、シュレーゲルアオガエル (2匹)、ヌマガエル (4匹、縦筋有15匹で34%)、ツチガエル (2匹)、ニホンアマガエル (1匹)、アカハライモリ、多数のオタマジャクシ

(西原 一誠 記)

## 7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

- 1) 6月24日時点での合鴨情報です。19日に大阪ツムラ本店より5羽の合鴨が届きました。13日に孵化したものだそうです。訓練を急ぎすぎて残念ながら5羽死なせてしまいました。残念で仕方ありません。緊急その兄弟合鴨を注文し20日に入荷しゆっくりトレーニングをしています。会員の方が合鴨を見学に来られてお逢いしますが、その都度説明しています。現在は私の車(バン)の中で順調に育っています。一日に一回午前中に現場の雰囲気慣らすため持ち込んで田んぼのよけじで短い時間泳がしています。勿論泳いだあとは水気をふき取ってやっています。泳がす間は、カラス、へび、を最大限に見張っています。等々はじめの5羽を死なせた事で最大限の注意を払って親代わりしています。カルガモのときと違ってチャボは親代わりになりません。これは孵化して数日たっているため、チャボも、コガモも敵同士だろう?と思います。はじめの合鴨のとき何とか苦勞して一羽親代わりのチャボを作りかけたのですが、コガモは死にチャボは行方不明となりましたので、現在私が親です。お披露目は7月2日です。以上合鴨情報でした。尚、カルガモはかなり大きくなって親チャボを外したため、網の外に出るようになったので野生に戻すべく蓮池西側の池続きの網を外していますので、好きに泳ぎ回っています、夜は小屋に戻っています。いずれは池ゾーンにも行って泳ぐ姿が見られるのではないのでしょうか?もうカラス、蛇、狐等の害獣からも自分で対応できるのではないのでしょうか?

### 2) 19年度会費未納者の方

- ・お名前は公表しませんが、未納者は早急に納めてください。会計係りも大変です。もし振り込まれるならJA山口宇部農協二俣瀬支所 口座番号4025466にお願いします。

## 8. 編集後記

今年の夏のビオトープは、カモが主役になったようです。カルガモに始まり、今は合鴨がせつせと田の草取りをしています。合鴨当番も何とか無事終わりほっとしていますが、吉富さんありがとうございました。ところで、合鴨を見ていると、稲の中に首をつっこんで、芽を食べているような気がするのですが、気のせいでしょうか。きっと、気のせいですよね。きっと、虫か何か、いるんですよね。先日は、7月としては、異例の大きな台風が日本列島を襲い、カモたち大丈夫かと心配していましたが、ほとんど風も吹かず、何とか過ごせました。このまま、順調に育って欲しいものです。もちろん、お米もです。おいしいお餅を期待しています。

ところで、最近、地震、台風、各地で大きな災害が発生しています。被災地の1日も早い復旧を願っています。

(藤井 義晴 記)